

詳徳中学校 学校だより

亀岡市立詳徳中学校卒業式号 ①

令和7年3月13日発行

卒業式 校長式辞

寒さも和らぎ、うららかな春の香りをを感じる今日。ご来賓として亀岡市教育委員会 教育長 神先 宏彰（かんざき ひろあき）様をはじめ、ご来賓の皆様、そして多くの保護者の皆様のご臨席を賜り、令和6年度 第三十九回卒業証書授与式が挙行できますことを、心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

さて、164名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、本日をもって、九年間の義務教育の課程を終えることとなります。皆さんが健康にこの日を迎えられたことを、大変嬉しく思います。

皆さんの三年間を振り返ったとき、体育祭のスローガンにもあった「マジ」「本気」というキーワードが、まず浮かんできます。

三年生の夏休みには、皆さんの多くの涙を見ました。最後の追い込み練習の末、手にした二年連続金賞受賞の歓喜の涙。優勝候補間違いなしと言われて迎えた試合での、まさかの悔し涙。前年のチーム力に必死に追いつき、勝ち取った府大会出場の嬉し涙。試合終了間際、まさかの同点ゴールで延長戦の末流した、現実を受け入れられたくない涙。近畿大会をかけて精一杯戦ったけれど果たせなかった、無念の涙。数え切れないほどの涙に出会いました。そして、共に過ごして来た先生方の目にも涙がありました。その涙の裏には、皆さんが一所懸命に取り組んだというだけでなく、強い「覚悟」を持った「本気」があったのだと思います。

そして、皆さんを表すもう一つのキーワードは「優しさ」です。ドイツの哲学者、ショーペンハウエルの寓話に、次のようなお話があります。

冬のとても寒いある日、二匹のヤマアラシが凍えないようにピッタリとお互いの体を寄せ合いました。すると、二匹のヤマアラシは全身を覆っている鋭いトゲでお互いを傷つけ合い、痛くなって離れてしまいます。しかし次第に寒さに耐えられなくなって、再び近づき寄り添いますが、痛いのでまた離れてしまいます。こうしてヤマアラシは何度も近づいたり離れたりを繰り返し、やがてついに、お互いが傷つけ合わずに、ほどほどに温め合うことのできる距離を見つけました。

このお話のように、いつも「相手の思いを尊重しながら、自分の思いを伝える」「相手の人権を大切にしながら自己主張をする」ことができるのが君たちでした。これは、三年間を通じてことあるごとに学んだ人権学習とともに、十五年間温かく見守り育ててくださった、ご家庭の教育があつてのことだと思います。

三学期の始業式で話した、太宰治の言葉を覚えていますか。『優しい』という漢字の話です。皆さんは、太宰治が言う「人偏（にんべん）に憂うと書いた優しい」人たちでした。憂えている人、心に悲しみを持っている人のそばにいて、人のさびしさやわびしさ、つらさに敏感にいてくれました。

皆さんの「本気さ」と「優しさ」を特に感じるのは、大きなイベント毎に学年みんなで円陣を組むときです。ちょうど二年前、コロナが収束する中で、日本中が感染予防をどこまでするべきかを悩んでいた頃。一年生だった皆さんは、中庭で「3年生送る会」の学年合唱の練習をしていました。当時の三年生と競い合いながら、心の底から声を張り上げていましたね。きっと、お世話になった卒業生を感謝の思いで送り出したい、という「優しさ」と、行動制限を守りながらもウイルスに負けたくないという「強い挑戦する本気の気持ち」で練習していたのだと思います。そして、発表前に学年みんなが心を一つにする円陣を見て、心を打たれたことを思い出します。

その時皆さんが歌った合唱が「正解」という曲でした。皆さんはその歌を、一昨日の送る会でも力強く歌い、後輩たちにメッセージとして残してくれました。

「答えがある問いばかりを教わってきたけれど、明日からは自分だけの正解を探しにゆくんだ。」「制限時間も、解答用紙も、採点基準さえも 自分のこれからの人生なのだ」というメッセージでした。本気で挑戦することのできる、優れた人権感覚を持った、真面目で優しい卒業生の皆さんなら大丈夫。これから出会うたくさんの「答えのない問い」を仲間と共に考え、最適解を見つけてくれることを信じています。

そして、そんな皆さんが、私の教員生活最後の卒業生であることを、誇りに思います。

最後に、皆さんに二つの言葉を送ります。私が人を教える職業に就いたときから、大切にしてきた言葉です。

一つ目は、「時は見送るものではない。それは迎え撃つものである。」という言葉。時間というものは、何もしなくても流れていきます。けれど、ただ過ぎていく時間を見送るのではなく、時を迎え撃ち、前向きにチャレンジしていく皆さんであってください。

そして、もう一つは、「一日一生」 今日の一日を一生のように、本気で生きて欲したいと心から願っています。卒業おめでとう。そして、ありがとう。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。長くも、そしてあっという間にも感じられる、義務教育の九年間だったことと思います。中学校三年間、様々な面で学校教育にご理解、ご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

今後は、地域の良き理解者として、本校の教育活動にさらなるご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。 それでは、卒業生の皆さん。明日からの前途に幸多かれと祈りつつ、悔いのない確かな一歩を踏み出してくれることを願い、式辞と致します。

令和七年三月十三日

詳徳中学校 校長 川口研一